



H29. 5. 29 (月)

NO. 4 桶売小学校長 本名 武



老婆と犬



かつての通勤途中、いつも同じ時間帯に見る犬の散歩。散歩させているのは高齢のおばあさんで、シルバーカー（手押し車）につかまりながらの散歩です。変わっているのは、そのかわいらしい柴犬の首にリードがされていないこと。しかし、老婆と犬の間は5mと離れません。

犬は、おばあさんよりちょっと先に行く立ち止まって振り返り、おばあさんの方を心配そうに見ながら待っています。おばあさんは、犬が止まらなくてもいいように両手を車のにぎりバーにあずけ、一生懸命に車を押しています。はじめはおもしろい犬の散歩だと思っていたのですが、心配そうな犬の顔と遅れまいと必死に車を押すおばあさんの光景を目にするうち、ふいに目頭が熱くなりました。互いを思う温かくもやさしい気持ちが、そこに確かに感じられたのです。

心配そうに振り返る犬と「心配ないよ、心配ないよ」と懸命に、しかしゆっくりと進むおばあさんの手押し車は、今もあの道（梁川～川俣間）にあるでしょうか・・・。



自分の体験や感じたことを子どもに話してやることは、「豊かなこころ」の育成にもつながるところです。何より子どもたちは先生方のお話を待っています。先生方の豊かな感性と上手なお話で、子どもに身近なところからの「心に響く話」をいろいろな機会にお願いします。

「自らを語る教師のもとに、心を語る子どもあり」です。



「両足が床につく」

立腰教育：教育者 森信三氏が提唱

「両足を床につけること」を意識させ、子どもたちの学力が変容したという話を聞いたことがあります。姿勢を正すこと→立腰。なぜ正しい姿勢が学びに必要なのでしょうか。

学習中の子どもたちの姿勢を正すことは、落ち着いた話の聞き方と内容理解、計算のうっかり間違いをなくすこと等々につながっているとのこと、また、精神的・身体（医学）的な面でも効果ありとのことです。基本は両足裏がしっかり床につき、背筋が伸びていること。

上履きをしっかり履いているか、つぶしていないか、つま先だけになっていないか。つま先や片足の場合は、椅子への深すぎる腰のかけ方や高さが原因。自分自身を伸ばす授業中の姿勢について意識させ、特に、話をしっかり受け止めて聞く力をアップさせましょう。